



教授法 開発室だより

vol.16

編集／教授法開発室
発行／佛教大学
発行日／2008年12月5日
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL.075-491-2141 FAX.075-493-9019

URL <http://www.bukkyo-u.ac.jp/>

そして、さらに提案型FDへの展開

教授法開発室 室長 達富 洋二

1. これまで

教授法開発室だよりも本号で16号になる。これまでの表紙を飾った記事は以下の通りである。

- vol. 01 教授法開発室の開設に当たって
- vol. 02 教員研修会報告
- vol. 03 学習形態からみた総合的の大学
- vol. 04 『なぜ、このままでは大学は生き残れないのか?』
について考える
- vol. 05 フィールドでの授業実践
- vol. 06 教授法開発室の今後に向けて
- vol. 07 教授法開発室の現状
- vol. 08 祇園祭フィールドワーク授業
- vol. 09 平成14年度教授法開発室活動報告並びに総括
- vol. 10 教授法開発室の方針と将来展望
- vol. 11 平成15年度教授法開発室活動報告並びに総括
- vol. 12 今後の教授法開発室のあり方について
- vol. 13 2005年度 教授法開発室活動方針
- vol. 14 2005年度総括と2006年度展望
- vol. 15 2006年度総括と2007年度展望

2000年からの歴史がうかがえる。01号では、教授法開発室の開設にあたって「FD活動を大学が組織的に行うこと」の重要性をうたい、07号では、2002年の現状として「本学固有のFDの模索」について詳しく記述されている。また、10号では、将来展望として「教授法開発という見えにくい領域のあり方と方法を検討していく」ことを提言している。12号では、大学コンソーシアム京都との関連にふれながら、「I-supportシステムの検証」「授業評価アンケートの見直し」「学生への学習支援」「学生からの『異議申し立て』の制度化」「教育支援のあり方」について、詳細な検討がなされている。

以降、組織的なFD活動の具現化に向けた取り組みの展開がなされ、本年度を迎えている。

確実な成果と、なかなかたどり着けない課題とを持ち合わせながらも、本学のFDは進んできた。全教職員の理解とこれまでの教授法開発室員の努力の成果である。

しかし、一方で、ながく積み残されたままの課題として、FD活動の評価がある。それは、十分な検討を要することがらであり、続けていくことで明らかになる問題でもある。本年度は、FD活動のPDCAに取り組むことを考え、「英語基礎力調査」「基礎学力調査」「授業アンケート」「授業公開」「e-Learning」「入学前教育」「初年次教育」「研究会」の取り組みについて、担当する室員を決め、企画から総括までを一括して運営することにした。

教授法開発室会議による企画の検討から、多くの関係者の参加によるFD研究会の開催までを計画する方法である。本教授法開発室だよりでは、それぞれの企画について、「これまでの経緯」と「これからの計画」について紹介している。

2000年からの本学FD活動の軌跡を尊び、さらに提案型の活動を展開していきたい。

2. これから

これからのFD活動を展開していくにあたって、とにかくFD活動の評価を真摯に行い、FD研究会として検証し、さらなるFD活動の深まりと広がりに向けた提案をしていきたいと考えている。

その一例として、本教授法開発室だよりでは、授業アンケートの自由記述についての総括を紹介した。学生の記述から、授業においてあまり意識していなかった部分が見えてくる。

なお、年度ごとのFD活動の総括は、『FD Review』として発刊している総括集を参照していただきたい。

英語基礎力調査

持留浩二

1. 経緯

2007年度の調査結果及びその分析については『FD Review』vol. 3を見ていただきたいが、簡単にまとめると次のようになる。全2回のテストの平均スコアがいずれも過去最高のスコアを記録しているものの、入学時に高い英語力を持っている学科の学生が1年後にそれほど学力を伸ばすことができていないという例年の傾向が2007年度にも見られる。また、サブスコアの分析からは、文法と語彙力が全体的に低下していることが分かった。さらに、今回新たにアンケート調査の結果を通して学生の英語学習へのモチベーションと英語力の関係について分析したのだが、その結果、1年間の英語学習を経てほとんど英語力が伸びていない、あるいは低下している学科において著しいモチベーションの低下が見られた。つまり彼らの英語学習への熱意が1年の間に低下しているのである。その他の、英語力でプラスの伸びを示している学科においては、そのようなモチベーションの低下を見せていないだけに、その原因がどこにあるのか、今後のアンケート調査でさらに探ってみる必要がある。

2. 計画

これまでの英語基礎力調査自体の改善点と、今後取り組むべき課題についてまとめてみたい。改善点としては、アンケート調査をもう少し改善し、学生の英語学習へのニーズやモチベーションの変化などが分かるようなものにすべきだと思う。もしかすると、英語の教員と学生の間で英語学習についての考えで大きなギャップがあるかもしれないが、アンケートを通してそういった考え方の違いについて明らかにできれば、より良い英語教育にプラスの効果をもたらすだろう。今後取り組むべき課題として、いかにしてこの英語基礎力調査の結果の分析を直接授業改善につなげることができるかという点が挙げられる。もし、学生の英語力や英語学習へのモチベーションを上げることに成功している授業の姿を、学力調査やアンケート結果を通して明らかにすることができれば、その情報を英語教員全体で共有することにより、より効果的な授業への改善につなげることができるはずである。より効果的なアンケート調査、学力調査の分析、そしてその結果の共有を今後の課題としたい。

基礎学力調査

近藤敏夫

1. 経緯 調査の目的とこれまでの問題点

教授法開発室では2000年度（平成12年度）に基礎学力調査の方針を立て、2001年度より基礎学力調査を実施してきた。その目的として以下の4点が示された。

学生自身に、自らの基礎学力、一般教養学力について自覚させ、自律的学習への課題を明確にさせる。

学生の学力実態データを学科教員に提供し、カリキュラム構想や学習指導への資料として活用してもらう。

今後定点悉皆調査としてデータを蓄積していく。

将来的には、大学独自の基礎学力テストや学科毎のテスト開発に向けてのデータや資料、およびノウハウを得る。

教授法開発室では、当初、本学の学部・学科構成に合わせて基礎学力調査を開発することが検討された。しかし、諸般の事情から、就職用の一般常識対策テストを用いている。2002年度から2008年度まで継続して用いている業者テストでは、1回生と3回生に同一のテストを課し、全国レベルの個人成績表と学習アドバイスが学生に送付されている。それゆえ、上記 と の目的は、ある程度、達成されている。しかし、本学が取り組むべき と の目的は達成されていない。

2. 計画 今後の新規取組

2009年度からは従来の一般常識対策テストに代えて、他社の「国語」の学力調査と「学習実態調査」を合わせて実施する予定である。対象者は新入生のみとし、調査結果を初年次教育・導入教育に生かすことを検討している。

近年、文系、理系を問わず、大学での講義やテキストの読み込みについてこられない学生が増加している。本学の新入生全員に「国語」の学力調査を課し、「日本語文章表現」等のカリキュラムに生かす必要がある。

また、「学習実態調査」では、学生の学習習慣を把握するとともに、大学教育への不安や期待を知ることができる。教員は調査データを活用して、学生ひとりひとりの指導が可能になる。さらに、「学習実態調査」と「国語」の学力調査を組み合わせることで、初年次教育・導入教育の方針を得ることができるであろう。

教授法開発室では将来的に「国語」に加えて理数系や社会科学でも学力調査を実施し、学部・学科・コースの特性に合った学生指導とカリキュラム作成に役立てることも検討している。そのためには、学部・学科・コースの教員が学力調査の問題作成も含めて、FD活動にかかわることが期待される。

1. 経緯

本学の授業アンケートは2001年度に始まり、今年で8年目となる。そして、その目的は教員の評価にあるのではなく、あくまでも学生の理解を助け、思考力や技能を高める（ひいては大学の更なる質的向上の）ための授業改善に役立てることにある。当初3割ほどであった実施率は、今年度春学期には8割を超えて（専任教員）いる。学生の授業満足度も年々向上し、こちらも8割以上の学生が満足度に関して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答している。このことから、本アンケートは概ねその目的を達しているものと判断できる。

しかし、授業に関して「理解できなかった」「満足できなかった」と回答している学生がいることも事実である。また、「学生の学習状況」としては、欠席をせずに授業に真面目に参加している学生が多く見られる一方、シラパスを読まない学生や事前・事後の学習をしない学生が多く見られる点が指摘できる。授業内容の定着・発展の視点から、授業改善に含めて考えていかななくてはならない課題であろう。

さらに、今年度からは通信課程にも授業アンケートを導入した。データの分析から、その特性に合わせた活用を検討している。

2. 計画

昨年度までの授業アンケートには「授業評価」に関するものが混在したので、「学生の学習状況」「理解度」「満足度」、それを裏づける「授業の要素」を視点を質問項目を整理した。授業の要素については、下記のことを列挙した。

シラパスの記述 授業の動機付け 授業内容構成
学習形態 話し方 マイクの使い方 板書
パワーポイント レジюме 視聴覚教材
教員や学生同士とのコミュニケーション

このような授業を構成する要素以外にも、例えば学生に将来に対する見通しを持たせることなど、全学的なキャリア教育の必要性も指摘できる。免許・資格に直結する教育学部・社会福祉学部・保健医療技術学部などは、いわゆる「学生の学習状況」が良いとの結果を読み取ることができる。学問や科学の本質を追究する面白さと重要性を学生に伝えると共に、授業アンケートから見出された結果を、授業改善にとどまらず、総合的な教学改革や学生支援に結びつけていく必要がある。すなわち、授業アンケートの結果を先生方にお戻しして授業改善に生かしていただくと同時に、教授法開発室では「授業アンケート研究会」と題して、より良い学習環境提供のための全学的な取り組みの方策について具体的に検討し、提言していく計画である。

1. 経緯

これまで実施してきた授業公開においては、授業を公開した者・参加した者双方にとって、自らの授業を見直す契機となっていたとはいえ、一授業あたりの参加者数は2~3名程度にとどまっており、大多数の大学構成員にとっては、その意義を認識するには至っていないのが実情である。

この間の教授法開発室会議においても、参加教員数の増加はいかにして可能かについて、再三議論を重ねてきた。しかし、たとえ授業改善の必要性を認識しており、参観する意思はあったとしても、物理的にその条件がない教員にとっては、実施時期・広報等の工夫だけで、事態の打開がみられるとは考えにくいという結論に達した。

2. 計画 今後の取り組みについて

2008年度上半期においては、授業公開を抜本的に改める方向で検討を進めてきた。そのひとつが優れた教授法を学ぶための「模擬授業」の開催である。実在する科目の一部をダイジェストで再現し、講義計画や教授方法上の工夫について解説を行い、質疑応答を行うことを想定したものである。これを教職員研修として位置づければ、自分の授業や会議等との重なりを気にすることなく参加することができ、「意思はあっても参加する条件がない」教員の参加を保障することができるであろう。

また、同様にダイジェスト版で講義を再現した上で、実際の受講生から、当該科目における教授法上の評価すべきポイントについて発言してもらおう場を設ける等の工夫も考えられよう。しかしながら、正規の授業時間以外で設定する以上、開催時期や参加を要請する学生・院生への周知徹底等も考慮し、次年度をにらんで引き続き検討していくこととなった。

他方で、授業公開そのものの意義は大きく、仮に参加者が少ない状態が続いたとしても存続する必要があるという意見もあった。たしかに授業の透明性を担保し、質を向上させるための努力は必要で、だれもが必ず数年に一度は「公開」することを前提とした上で、本事業を細く長く継続していくことにも意義があるだろう。

そこで、2008年度秋学期における授業公開については、例年通り12月初旬から中旬に実施し、第3週に昨年度同様の研究会を開催する方向で調整することとなった。今年度中に新たな事業の提案ができないのは残念であるが、授業改善の為の努力は多様に展開されてしかるべきである。多くの方々の参加を期待したい。

1. 経緯

本学e-Learningシステムが稼働し始めて4年目を迎えた。1年目にはセメスターの後半にさしかかってからという場合もあった稼働開始時期も早まり、実用上問題のないレベルとなっているように思う。卒業研究予備ゼミなど、受講生が春・秋学期共通の授業については、春学期のシステムをそのまま秋学期にも流用するなど、効率化がはかられた結果でもある。

試作段階から試用段階にかけて何度かのヒヤリング会が開かれ、使用者の改善要望等をシステム整備に反映させてきた。まだ使い勝手の複雑な機能があるなど改善の余地はあるが、機能的には安心して使用できる形に近づいてきている。今後は主に運用方法が問題となるだろう。

e-Learningシステム利用を論じる際、このシステムで何が実現できるのか、どのように使用すれば効果的な運用実績をつくることができるのか、といった、「初めに器有りき」の議論にどうしても傾いてしまうきらいがあった。しかし多くの大学がe-Learningシステムを実際に運用している今日、議論の焦点は単なる運用実績でなく、いかに質的に高い授業成果を上げるかという方向に明確にシフトしてきている。初年次教育やリメディアル教育への応用、学生と教員の間意思疎通の通路としての利用など、様々な利用観点から本当の意味での「実用」化がはかれつつある。

本学においても「縁」プログラムへの組み込みなど、新しい運用方法が実用段階に入りつつある。そうした実践の中で、e-Learningシステムのあり方も、自ずから洗練・開拓されていくだろう。

2. 計画

教授法開発室会議では、以下のようなスケジュールですでに検討し、さらに今後も検討を重ねていく計画である。

春学期

- 6月中旬： e-Learning使用状況アンケートの形式検討
- 7月上旬： 春学期e-Learning使用状況についてのアンケート実施

秋学期

- 12月初旬： e-Learning使用状況アンケートの形式検討
- 1月下旬： 秋学期e-Learning使用状況についてのアンケート実施

3月中旬： e-Learning使用状況のまとめ

通年

- ・入学前教育への応用の可能性
- ・リテラシー教育・リメディアル教育・「縁」プログラム
- ・e-Learningなのか学習サポートなのか

1. 経緯

本学では、入学前教育の目的を「入学後の学部・学科（コース）における専門教育への導入」とする。この目的を達成する教育内容の柱としてめざすのが、「学部（学科）教育に対する理解の促進」「学習意欲（モチベーション）の向上」「学習に対する意識付け」「学習への不安緩和」という4項目である。

振りかえれば、2002年当初、特別推薦入試等の合格者を対象に実施に踏みきった入学前教育は、入学までの相当長期にわたる期間、学習意欲あるいはモチベーションの維持を主な目的としていたが、その後の模索・検討のなかで上記の通り整備されてきている。昨年度は、形態をレポート作成コースと授業体験コースの2種別とし、後者では新たに自校教育を開始した。

本年度もひき続き、教授法開発室を中心に入学前教育について鋭意検討を進めているが、昨年度の自校教育実施の実績を踏まえ、教育内容の柱（実施目的）に「本学に対する理解の向上」を追加することが教育開発委員会（第4回。2008年9月17日）で審議・承認された。同時に、入学前教育の果たす役割の明確化、入学前教育と初年次教育との連携、平成22年度のカリキュラム改革に向けた共通科目の見直しに伴う検討など、諸種の課題も議論されている。

2. 計画

入学前教育は、なお模索の段階にある。受講者の評価は極めて高いが（『FD Review』vol.3）、これをさらに充実・発展させる上には、上記課題として指摘されている体系的な教育プログラムの一環としての位置づけが急務である。

その場合、高校から大学への円滑な移行をめざす初年次教育や到達すべき学習目標の明確な専門教育を前提とする導入教育などに繋げ、それらとの連携をはかる必要がある。また一方、本学の教育プログラムとして特色ある縁プログラムを入学前教育に活用することも課題である。

初年次教育

日下隆一
達富洋二

1. 経緯

初年次教育の内容をどのようなものにするかということにも関係するが、現在のところ、本学では初年次教育という名称の科目の授業はない。全学に開かれた自校教育やリテラシー関係の科目、各学部における入門ゼミなどには、初年次において系統的に学ばなければならない内容が組み立てられ、学びの導入として成果を上げているが、それらは、本学における高等教育への導入としての科目である場合もあれば、学部学科の専門的な学びの導入としての科目であることもある。

一方、本学の入学前教育は、「入学前教育」の稿でも明らかのように、その両方にふれる機会として成果を上げている。

2. 計画

教授法開発室としても、初年次教育について検討を図りたいと考えている。教授法開発室会議では以下のような内容について検討していく計画である。

- ・入学前教育については、その名称や内容が共通に理解されている訳ではない。初年次教育を「学部学科への導入教育」と考えるのか、「大学での学びの導入」と考えるのかを整理する必要がある。
- ・中等教育を受けている学習者が、高等教育機関に入学したとき、高等教育の学びへと移行していけるようにすることが必要であると考え。
- ・全学共通の内容とする場合には、共通の教材を用いて均質化された内容を展開する必要がある。
- ・通信教育課程においても初年次教育を行う必要があると考え。
- ・学生にとって分かりやすい科目名称であり、授業内容、教材であることが望ましいと考える。
- ・設定する内容によっては、現在行われている科目との重なりなども検討していく必要があると考える。
- ・「仲間づくり」なども初年次教育の内容としている大学もあるが、本学における初年次教育の目標を明確にしなければならないと考える。
- ・市販本の利用だけではなく、本学で教材を開発することも考えたい。ただ、当面は、本学教員がこれまで行ってきた関係する授業などの既存の教材を活用することも考えられる。また、e-Learningなどを活用する方法も考えられる。

本年度の事業活動

事務局

- 4月 3日 基礎学力調査実施（1回生対象）、英語基礎力調査実施（1回生対象）
- 4月 4日 基礎学力調査実施（3回生対象）
- 4月 8日 第1回教授法開発室会議
- 4月16日 第2回教授法開発室会議
- 4月23日 第1回教育開発委員会
- 4月26日 関西地区FD連絡協議会設立総会（於京都大学）
- 5月 7日 第3回教授法開発室会議
- 5月14日 第4回教授法開発室会議・第1回FD研究会
- 5月28日 第2回教育開発委員会
- 6月 4日 第5回教授法開発室会議
- 6月11日 第6回教授法開発室会議
- 6月18日 第3回教育開発委員会
- 7月 1日 『FD Review』 vol.3 刊行
- 7月 1日 春学期授業アンケート実施（～22日）
- 7月 2日 第7回教授法開発室会議
- 7月 9日 第8回教授法開発室会議
- 7月上旬 春学期e-Learning使用状況アンケート実施
- 7月20日 通信教育部 夏期スクーリング授業アンケート実施（～8月23日）
- 9月10日 第9回教授法開発室会議
- 9月17日 第4回教育開発委員会
- 10月 1日 第10回教授法開発室会議
- 10月15日 第11回教授法開発室会議
- 10月29日 第5回教育開発委員会
- 10月30日 第1回京都FD開発センター会議（於キャンパスプラザ京都）
- 11月12日 第12回教授法開発室会議・第2回FD研究会
- 12月 2日 ・4日・9日・11日 秋学期授業公開実施
- 12月10日 第13回教授法開発室会議
- 12月15日 秋学期授業アンケート実施（～1月23日）
- 12月17日 第6回教育開発委員会
- 1月10日・17日 英語基礎力調査実施（1回生対象）
- 1月14日 第14回教授法開発室会議
- 1月21日 第15回教授法開発室会議
- 1月28日 第7回教育開発委員会
- 1月下旬 秋学期e-Learning使用状況アンケート実施
- 2月 4日 第16回教授法開発室会議
- 2月18日 第17回教授法開発室会議
- 2月25日 第8回教育開発委員会
- 3月 1日 入学前教育 授業体験コース実施
- 3月11日 第18回教授法開発室会議
- 3月中旬 e-Learning使用状況まとめ
- 3月25日 第9回教育開発委員会

授業アンケートの自由記述とその考察

2007年度春学期に行った授業アンケートにおける自由記述から、「言葉・教員の姿勢」「授業の構成（要点・時間・方法）と進行の工夫（時間・方法・教材）」「レジュメ」「プレゼンテーション（パワーポイント）の使用」にかかわる記述を以下に抜き出す。学生の自由な記述であるため、相対評価とも絶対評価とも言えないものもある。評価の規準も統一されたものではない。

また、「授業に対する学生の受け取り方」「評価された教員の要因」「教員の技術的要因について」考察を図った。

事例と考察より、授業改善に視点とその効果について、教員と学生との間に差異があることが分かる。

考察

1. 目的

目的は、2007年度に行われた授業評価を分析し、学生が評価もしくは改善を示唆した教員の諸要因について考察することとした。

対象および方法

対象は、2007年度授業評価における自由記述とした。方法は、自由記述（春学期および秋学期）を学生が評価した群7998件、改善を示唆した群4245件の中から、キーワード別に自由記述を抽出し、カテゴリー別に分類した後に、一方の件数が100件以上のものについて検討した。

2. 結果

2.1 授業に対する学生の受け取り方（図1、2）

授業を学生がどのように感じているかについては、今回挙げた項目の中では「楽しい等」が30%で最も多く、次いで「興味深さ等」17%、「面白さ等」14%、「理解できた等」11%であった。

図1 授業に対する学生の受け取り方

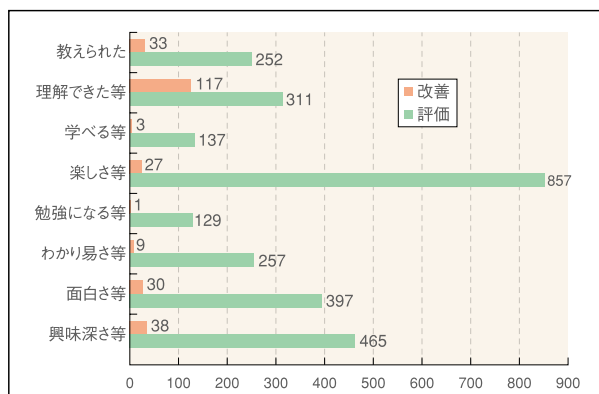
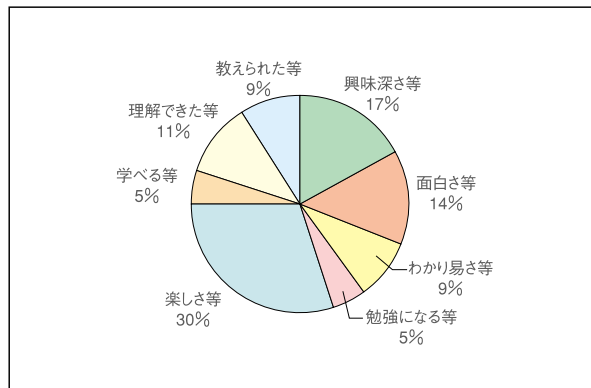


図2 学生が評価した項目の割合



2.2 評価された教員の要因（図3、4）

学生が評価した教員の教授・指導要因は、最も多かった項目上位3項目において「適切な説明等」42%、「熱意・熱心さ等」31%、「丁寧さ」27%であった。

図3 評価された教員の教授・指導要因

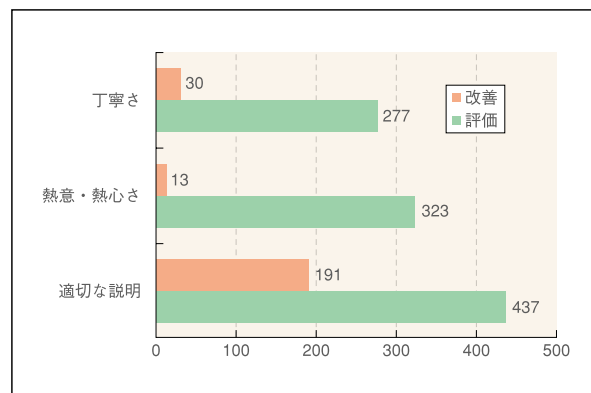
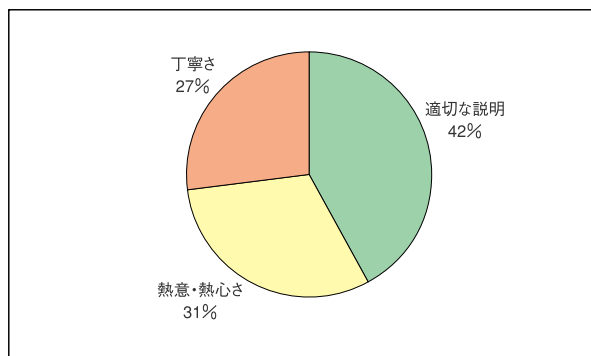


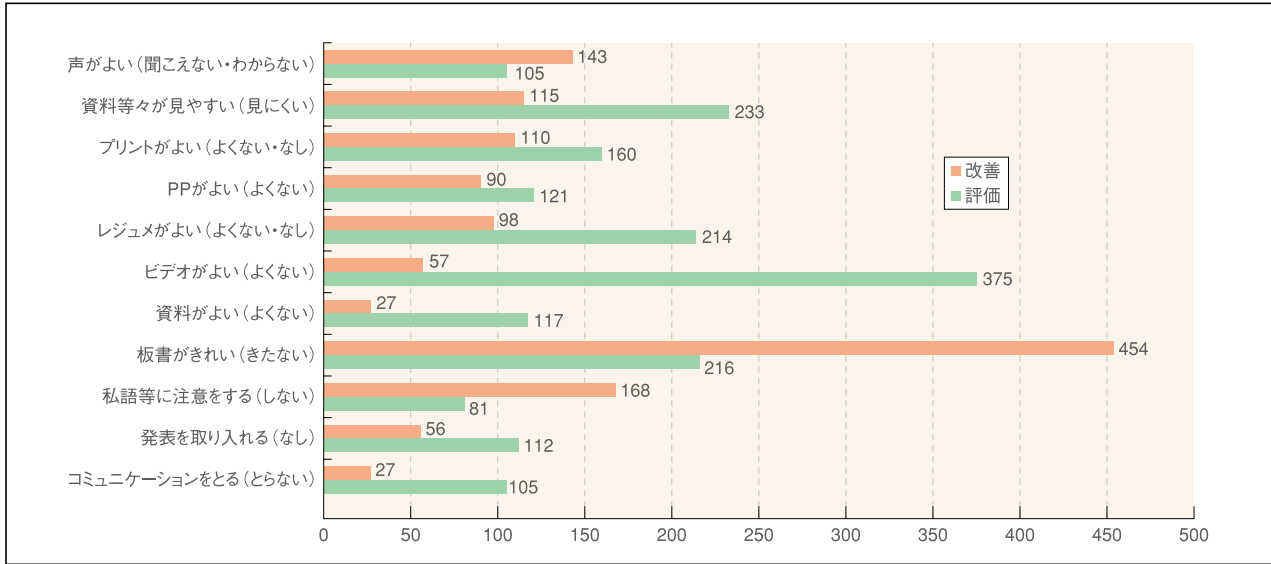
図4 評価された教員の教授・指導要因の割合（上位3項目）



2.3 教員の技術的要因について（図5）

最も学生からの改善を要する項目は、板書に関するものであり、逆に評価されたものはビデオ、資料、レジュメ等の良否であった。このうち、ビデオは評価が高いが、PP、プリント等は改善を求める件数も多かった。また、「私語への注意等」に関しては、「注意しない」は「注意する」の約2

図5 教員の技術的要因(改善/評価)



倍であった。

3. 考察

今回の調査では、学生は授業が楽しいことが最も評価する項目であると考えていることがわかるが、授業が楽しいということの中には多様な考え方が含まれているものと考えられる。したがって、この項目は楽しく授業を行うということを教員がどのように解釈し、実行するかによだねられているものと考えられる。そのため、教員は授業にあたって「興味」「面白さ」「わかり易さ」「理解」を念頭に、これらを「楽しさ」と結びつけることが学生の評価を高めるものと思われる。また、授業に当たっては「丁寧に熱意をもって説明する」ことが求められており、板書はきれいに書き、補助教材の多用も求められていることになる。

しかし、このような評価はあまりにも一般的であり、むしろ学生が評価した項目で「変わった、かわった：95件」「集中できた：71件」「役立った：65件」「参考になった：70件」などの項目が重要と思われる。ただ、全記述において「個性的」と記述したのはわずか2件であり、おしなべて一般的な教員が評価されるとなれば、大学教育のあり方はその幅と深さを失う可能性がある。加えて、「教員が好き：103件」が、学生に好かれる教員のあり方を示唆するものであるとしたら、それは再考に値するであろう。

言葉・教員の姿勢

1. コミュニケーション / 満足できるところ

- ・マイクを回してコミュニケーションを促進する。
- ・先生とのコミュニケーションが多かった。
- ・学生との関わりを持ってきて、訳がわからないところ

を丁寧に対応してくださいました。

- ・コミュニケーションが良かった。
- ・先生が真剣に学生に向かいあいながら、授業を進めてくださったように感じました。
- ・コミュニケーションの時間が多くて、授業に対する意欲がすごく高まりました。
- ・毎回のグループディスカッションでゼミのみんなが仲良くなれてよかった。楽しかった。
- ・先生が親しく接してくれたので、楽しく授業が受けることができた。
- ・みんなで話し合いをしたのが良かった。
- ・先生が学生とコミュニケーションを大切にしている、すごく良かったと思う。グループワークの授業は互いに意見交換が出来て、とてもよかったと思う。

2. 評価 / 満足できるところ

- ・課題に対してしっかりコメントや評価をしてもらえるところ。
- ・学生の意見を尊重してくれる。
- ・質問などについてその都度返答してくれた点。
- ・質問にしっかり答えてくれるのでわかりやすかった。
- ・出席カード裏に質問を設けて学生からの切実な悩みもしっかりと対処してくれた。
- ・出したレポートに対して細かいコメントをしてもらえる点。
- ・きちんと質問に答えてくれるところが良かった。
- ・授業の最後に、質問や感想を書く紙があって、直後に質問できたのが良かった。
- ・感想とかをしっかりと読んでくれたのだと感動した！
- ・何が悪かったのか発表後の指摘が素晴らしかった。さすが教員と思いました。

3. 話し方 / 満足できるところ

- ・話がわかりやすく、とても楽しい授業でした。
- ・先生の説明が丁寧で分かりやすい。
- ・先生の話し方がとても好き。
- ・声も大きかったので内容が非常に分かりやすかった。
- ・先生の話すテンポ。
- ・先生の言葉に迫力があって聞き入った。

4. 分かりやすさ / 満足できるところ

- ・話し方がわかりやすかった。
- ・授業の内容がわかりやすく、熱意を感じました。
- ・細かい部分まで丁寧に教えてくれて、真剣に取り組むことができました。
- ・丁寧な解説。
- ・ゆっくりのペースで理解してから進むことが出来た。
- ・わからないところとかを丁寧に教えてくださったのでよかった。
- ・丁寧な説明があった。
- ・たくさんアドバイスをしてもらえて本当によかったです。
- ・講義内容説明が非常に詳しくわかりやすかった。
- ・毎回順序立てて授業が進められ、具体的な例をあげながらの説明はとてもわかりやすく、興味を持って聞くことができた。
- ・理解できるまで何回も説明してくれた。
- ・わからなかったところを書いた紙を出すと、次の時間にもう1回解説してくれる。
- ・的確な説明。
- ・ゆっくり説明してくれる。聞き逃したところはきちんと反復してくれる。
- ・進度がゆっくりなのでわかりやすい。
- ・先生の話が面白く非常にわかりやすかった。
- ・丁寧。

5. 教員の人柄 / 満足できるところ

- ・先生が優しく、授業を受けていて気分が良かった。
- ・先生の人あたりが優しくとても安心します。
- ・熱意を感じました。
- ・先生の優しさ。
- ・個性的な授業でした。
- ・先生にとっても熱意があった。
- ・毎回とても熱心に講義をしてくださいました。
- ・良い教師です。
- ・一言コメントが何気に面白かった。先生の興味もわかったりもした(？)
- ・先生きれい。
- ・先生のしゃべり方が良い。
- ・熱心だった。
- ・先生大好き！ 面白い。
- ・先生の話(雑談らしい)が面白かった。

- ・教員は熱心さがあって、こちらも意欲が増した。
- ・大変熱意が感じられ、迫力のある授業でした。
- ・教師の熱意が伝わり、理解しやすかった。
- ・適当な感じが良い。
- ・先生が気さくでとても親しみやすかったです。
- ・先生がかわいいこと。
- ・何となく先生の雰囲気が好きでした。
- ・学生全員の名前を覚えてくれていたので親しみやすかった。先生にとっても熱意が感じられた。

6. 私語に対する注意 / 満足できるところ

- ・うるさい人にはしっかり注意してくれたし、相談もあったし。
- ・うるさかったりしたら注意してくれた。
- ・私語が少なく取り組みやすかった。
- ・私語を注意する。
- ・教員が授業を妨げる行為にしっかりと対処してくれた。
- ・私語をしていた人をきちんと注意していた点。
- ・授業を聞こう!! という気分になれた点が良かった。静まるまで話し始めないスタンスも好きです。
- ・この授業は絶対に私語は許さないという強い姿勢(改善点:先生と学生の間壁があったように思う。私語について、もう少し注意の上手いやり方があったのではないか。)
- ・うるさい学生にはちゃんと注意してくれて授業がちゃんと進みました。

7. 脱線話 / 満足できるところ

- ・たわいもない話が面白かった。
- ・道がそれる授業が多かったが、それもこの授業の魅力だと思う。
- ・話が全くちがう話にそれたりしたけど、それが面白かった。
- ・たまに面白い話があった。
- ・雑談面白い。
- ・小話が面白かった。

8. 時間厳守 / 満足できるところ

- ・時間通り授業が始まる。
- ・時間に正確でした。
- ・時間が守られていて良かった。
- ・時間は守られていた。
- ・時間通りに終わる。

9. その他 / 満足できるところ

- ・疲れてきたところに質問に答えてくれて、休む時間があったのが良かったです。
- ・楽しかった。
- ・授業に対して、真面目に、でもかたすぎず学べるよう配慮がある。

- ・完璧にできていなくても、努力を認めてくれるところ。
- ・学生の気持ちを考えてくれる先生でよかった。

10 . 私語への対処 / 改善を期待するところ

- ・私語を注意してほしい。
- ・私語を注意しても改めない時は退出させる方が良いと思う。
- ・うるさい。
- ・教室が広く、人数が多いため、うるさすぎて集中できませんでした。私語に対してはいくら言葉で注意しても効果が無いと思います。もう少しクラスを分けて人数を減らすなどしてほしいと感じました。
- ・私語等への注意をするのは良いですが、あまり神経質になりすぎると、逆に授業が止まって迷惑です。これだけ人数の多い授業の場合、多少のあきらめも必要だと思います。
- ・迷惑行為に対して厳しい対処が必要。
- ・授業の妨げとなる学生は退室させるべき。(同30名)
- ・威厳が無さすぎ。
- ・大教室の授業では態度の悪い輩を注意する専門の人を配置すべきだと思う。
- ・怒ってもよかった。
- ・授業を聞く気のない学生は登録を取り消せる権限を先生にも与えるべきだと思う。

11 . 出席の扱い / 改善を期待するところ

- ・出席の扱いが不公平。
- ・出席カードに記入して授業中に出て行く人達と、真面目に授業を受けている人達の出席や評価の扱いを同じにしないで欲しいです。

12 . 授業時間の厳守 / 改善を期待するところ

- ・授業終了時間の厳守。(教室移動の時間が無くなるから)
- ・教員が遅刻しないでほしい。
- ・教員が時間どおりに来ない。

13 . 授業の進度 / 改善を期待するところ

- ・授業の進度が速い。
- ・授業の進度が遅い。

14 . 話し方、声 / 改善を期待するところ

- ・声のトーンを落としてほしい。
- ・眠ってしまわないよう時々声を張るともっと良いと思う。
- ・はきはき話してほしい。
- ・話し方をもっとハキハキとしてほしい点。
- ・説明をだらだらして、聞いていて不愉快だった。
- ・声が聞き取りにくい。
- ・声が大きすぎ。
- ・マイク越しの声が大きすぎる。

- ・声が小さすぎる。
- ・落ち着いて堂々と話をしてほしい。
- ・ゆっくり進めてほしい、早口。
- ・早いとついていけない。
- ・スピードが速い。
- ・話し方がくどい。(同じことを繰り返すすぎ)
- ・単調、ユーモアがほしい。
- ・皮肉めいたしゃべりが、とても不快なので直してほしい。

15 . 教員の人柄 / 改善を期待するところ

- ・教員の自己満足。
- ・自分の自慢をしすぎ。
- ・軽はずみな発言がいくつかみられた。
- ・学生によって厳しく当たったり優しくったり差があるように思えたので、統一してほしい。
- ・学生をバカにしすぎ。
- ・学生から反応がないとき悪い言葉でキレるのはどうかと思う。

16 . コミュニケーション / 改善を期待するところ

- ・学生とコミュニケーションをとってほしい。
- ・学生の反応をみるべき。
- ・学生の意見を理解しようとするべき。
- ・ディスカッションをしてほしい。
- ・もっと会話をしたい。

17 . その他 / 改善を期待するところ

- ・やさしく指導してほしい。
- ・水やお茶を飲むのを注意しないで欲しい。
- ・テキストを購入しても授業であまり使わない、テキストが高価である。

授業の構成(要点・時間・方法)と進行の工夫 (時間・方法・教材)

1 . 要点の明示 / 満足できるところ

- ・パワ - ポイントとハンドアウトを使いながらだったので、チェックするところやポイントがよく分かって良かった。
- ・レジュメを使っただけの授業だったので話に集中できた。何度も繰り返して言ったり、例をあげての説明でわかりやすかった。
- ・授業の中で重要なところがどこかハキハキ喋ってわかりやすかった。
- ・パワーポイントやプリントなどで具体的にを見せてくださった点。話がわかりやすかったです。ノートも大変まとめやすかったです。
- ・講義全体のテーマを早くから説明し、それに沿って授業が進められたのでわかりやすかった。

- ・授業ごとにテーマが明確だったので良かった。
- ・授業ごとに今回のポイント・考えるべき点などの説明があり、学習する上でも、聞く場合でも焦点を絞って授業を聞くことができた。
- ・授業を始める前に、前回の復習をしてくれたので、とてもよかった。
- ・一般的に知られている考え方の後に、先生自身の考え方をおっしゃったことで、一般論を吟味でき、とてもよかったと思います。

2. 進行 / 満足できるところ

- ・授業のペースもちょうどよかったです。
- ・進度がゆっくりなのでわかりやすい。
- ・先生が学生のスピードに合わせて授業をしてくれた。
- ・授業の進むスピードがちょうど良かったので、自分の頭の中で授業の整理がきちんできた。
- ・せかせか急がず、ちゃんとみんなに理解してもらおうとゆっくり説明してくれていたため、すごく理解しやすかったです。
- ・授業ペースがゆっくりで丁寧だったこと。
- ・時間の区切りがちょうど良く、テンポが良かった。

3. フィードバックの工夫 / 満足できるところ

- ・質問されることやグループワークなど、自分達で考える作業が多く、興味関心が湧いてきたこと。また意見のぶつかり合いなど積極的に取り組めたこと。
- ・授業の最後に、質問や感想を書く紙があって、直後に質問できたのが良かった。
- ・授業後に、ホームページへの書き込みが宿題として出たが、十分に考える時間が与えられていたため、その場の感想よりも、充実した振り返りになったと思う。
- ・毎回テストがあるのはしんどかったけれど、テストがあったことで、1回1回の授業の復習がしっかり出来、授業に真剣に取り組むことが出来た。

4. 教授法上の工夫 / 満足できるところ

- ・レジュメが効果的に使われている。
- ・授業の最後の何十分か教授と発表者、全学生と含めて論議される時間が充実していた。
- ・コミュニケーションする機会が多くあった点。
- ・グループで話し合う機会が多くあり、主体的に学べる授業で良かった。
- ・ビデオが効果的に使われ、多くのことが学べた。
- ・小テストがあって勉強になる。
- ・宿題などがあって予習・復習の機会を持てたこと。

5. 全体の構成・各回の進行テンポ / 改善を期待するところ

- ・発表する単元が集中していたところがあったので、いろいろな単元の発表と先生の指導が欲しかったです。
- ・時間がもう少し長ければいいと思う。(同2名)

- ・細かすぎて分かりづらかった。結局この授業で何が言いたいのかわからない。
- ・情報量が多くて頭に入りきれない感じもしました。
- ・ペースが速い。通年にする方が内容の理解はしやすい。
- ・同じことを何回もやるのも大事だと思うけれど、他のことも勉強したかったです。
- ・もう少しゆっくり授業を進めてほしかったです。字も少し大きく書いてほしかったです。
- ・広く浅くですが、もう少し誰かに絞って深くやってくれたら面白いです。
- ・話がいろいろな方向へ飛びまくるので、主旨がわからなくなるときがあったので、その点は改善すべきだと思う。
- ・1つの授業内で何度か話が脱線することがあり、時間を気にして口調が早くなるのがあって、聞き取りにくい箇所があった。
- ・幅広い内容のため、どうしても全ての内容が出来ないのが少し残念でした。省略した所も少し説明が聞きたかったです。
- ・毎回同じことの繰り返しで少し飽きた。
- ・授業の絶対数が少なすぎる。
- ・後半になるにつれ、進むスピードが速くなっていったこと。
- ・ちょっとゆっくりすぎだと思いました。
- ・もっとスピードアップしてほしかった。

6. 時間配分 / 改善を期待するところ

- ・講義時間の延長がいつも長くて、次の講義に間に合わない。
- ・終わるのが遅い。
- ・ちょっと時間が足りないので要領よくやらないとだめ。
- ・授業時間が、ギリギリまであって、次の授業に遅れるので少し早めに終わってほしいです。(開始時間は早いので)
- ・最後に感想を書かせるけど、いつも時間が足りない。質問すると怒ってる。話し方が稚拙??意味も分からない。
- ・余談で時間を使いすぎないでほしい。
- ・授業後の小レポートをもっと早めに渡して欲しい。(同2名)
- ・授業進度が速すぎる。出来ない人にも目を配って授業を進めてほしい。
- ・話さなければいけないことが多いのはわかりますが、パワーポイントで次に進むのが早い。
- ・同じような話を何度も話しすぎだと思います。
- ・1時間の授業で書きすぎ。字がごちゃごちゃしていて読めなかった。
- ・テキストの進むペースがバラバラだったので、もう少しペースを決めてほしかった。
- ・今回は課題が多くて、5時40分に終われないことがあって、しかもその後に講座があって遅刻した...なので、もう少し時間配分と課題量を考えてほしいです。よろしくお

願います。

- ・もう少し授業始める時間を早くしてほしい。
- ・作品を作る時間が少し短かったかもしれません。
- ・作業時間や片付けの時間が少し短いかもしれない。
- ・時間以上に分量が多く、もっと聞きたい所が少し薄く感じた。
- ・時間通りに終わってほしい。
- ・90分の授業内で大切なことを少し言いすぎだと思う。頭がパンクしそうです。
- ・時間配分が悪い。対応が悪かった。
- ・発表の時間配分。
- ・もう少し授業を進めるのが早くても良いのじゃないかと思いました。
- ・毎回1時間（60分）以内に授業が終わるのはもったいない。
- ・同じことを何時間もやり直しする意味がわからなかった。まさか大学でこんなことをするとは…。
- ・1個の項目がダラダラ長い。
- ・丁寧すぎて進むペースがちょっと遅いし、流れを作ってほしいです。
- ・余談と授業のバランス。無駄な話が多かった。
- ・ビデオを見ると、いつも終了時間が遅れていた。
- ・何も発表しない時間もあり、時間がもったいないと思った。
- ・暇な時間が多い。
- ・授業進行が上手く行ってなかった。
- ・授業のペースが遅い。
- ・時間配分をもう少しきちんとしてほしかった。
- ・ペースが速いです…訳がわかりません…。
- ・もう少し学生の様子を見ながら進めたほうが良いと思う。
- ・90分にやる内容が多すぎて早口になっていてついていけなかった。
- ・レジュメや要点をまとめてプリントにしてほしかったです。先生の話すスピードと内容についていけず、苦しかったです。
- ・ペースが落ちて授業時間内に終えようと努力された結果、速すぎてついていくのに苦労した。明確な説明が出来ない。
- ・1つの授業に内容を詰めすぎだと思います。
- ・勝手に話が進んでる感じがした。発表者に対する扱いの違い。最後になって焦りすぎ。
- ・時間配分。
- ・授業開始が少し遅い。
- ・終わるのが早すぎる。
- ・授業が終わる間に感想を書くプリントを一人一人配っていくのはとても迷惑でした。
- ・時間配分をもう少ししっかりしてほしいです。

7. 要点の明示 / 改善を期待するところ

- ・この授業を受けた人達は、最低これだけは理解してほしいという明確なメッセージ。盛りだくさんで拡散的であった。
- ・今、講義している内容の主題を示してください。
- ・進むごとにできているか確認がほしいです。ついていけない場面があった。
- ・その時にしなければならぬ内容がわかりづらかった。
- ・プリントの枚数が多すぎて、どこが重要で何が言いたいのかが分かりにくいところがあった。
- ・もう少しその授業で何を伝えようとしているのかを明確にしてほしい。
- ・重要点が分からない。話が早すぎる。授業内容を1コマに詰め込みすぎでは？ テストの絞込みが難しい。

8. 教授法上の工夫 / 改善を期待するところ

- ・授業の進め方を変えて欲しい。課題をメールで提出するのはいいが、家にパソコンがない人が大変なのでやめたほうがいい。
- ・座談会が一度開かれましたが、そういう機会がもう少しあるとよいと思いました。
- ・常の生活と授業（テストもあるのに）の混合で評価とするのが若干意味不明です。
- ・最後の班の発表がレポート提出時期と重なり辛い。
- ・もっと討論したらよい。
- ・ディスカッションの時間を作るなどをすると、もう少し学生が授業に入り込めるのではと思う。PPTを入れつつ、途中で質疑を入れるなどすると、常に参加する姿勢を崩すことなく授業が出来るのではと思う。
- ・先生が話してばかりだから、学生も参加できるようにしたら良いと思います。
- ・この人数でディベートはちょっとムチャだと思った。
- ・この人数でポートフォリオは向かないと思います。最終評価は先生が行わないと公正ではないと思う。
- ・ビデオ教材が多く、全体的に教員本人の講義が少なかった気がする。自主教材、自主採点が多すぎる。場合によっては不正が好き勝手にできる。毎回違う人からコメントをもらうようにと言っていたが、まったく実行できてなかった。
- ・ビデオなのに、教員の方がただ原稿読んでるだけだし、先生が読んで全然支障ないと思います。
- ・声が大きすぎ。レジュメは当日話す分を配布しないで、前回のを配っていい授業にならない。
- ・テキストのレベルが高すぎて、何のステップも踏まずにいきなり読めるものではないと思いました。また授業ペースも速く、このテキストでこのペースは無理だと思いました。
- ・板書は途中であちこちに足されたのでノートの隙間が埋まってしまい書き辛かったです。聞きなれない言葉ばかり使っていて話がわかりにくかったです。

- ・先生と発表の学生の2人で授業を進めているように感じました。
- ・グループワークにこだわりすぎたと思う。もう少しグループワークの回数を減らしても良いのでは?と思う。
- ・学生とのコミュニケーションがない。
- ・討論の結果、出てきた意見に対してのコメント、補足等があったほうが良いと思う。

9. 授業の計画性・見通し/改善を期待するところ

- ・急に休講になりすぎ。
- ・いきなりフィールドワークに行ったり、遠い資料館に行かせるのはやめてほしい。
- ・フィールドワークをする時は前の時間に言っただけでいい。ヒールの高い靴だったりしたらしんどいです。
- ・持ってくるものは事前に言ってください。作業と同進行で難しい説明をされるのはきついです。
- ・学生の反応を見て、その場で講義を進めていっていたので中身のある内容になりにくかった。
- ・講義の組み立てをもっとしっかりした方がよい。中途半端だった。

レジュメ

1. レジュメ/評価すべき点

- ・ノートをしっかり書いてくれたし、レジュメもあってよかったです。
- ・声が聞き取りやすく、パワーポイントとレジュメがとも使いやすかった。特にレジュメにメモが取りやすかった。
- ・レジュメを使っただけの授業だったので話に集中できた。何度も繰り返して言ったり、例をあげての説明でわかりやすかった。
- ・毎回、しっかりとしたレジュメがあった。
- ・毎回の講義はレジュメとパワーポイントで見やすかった。
- ・レジュメがすごくわかりやすかったのでありがたかったです。
- ・毎回レジュメがあったのは、授業を聞いたり、見直すときに役に立った。子どもの権利条約を一つ一つ確認していったのは、私にとって印象に残った。
- ・レジュメ作りに先生の汗が見られた。
- ・毎回、丁寧なレジュメを頂き良かったです。先生の説明、レジュメも解かりやすかった。ただ1限だったので眠くなってしまい申し訳なかったです。
- ・レジュメにその日の授業内容がしっかりまとめられており、わかりやすかった。(同12名)
- ・レジュメに書き込みしやすいのがすごく良かったです!
- ・授業中に配られたレジュメがよく出来ていてわかりやすかった。説明もよく分かった。

- ・パワーポイントを使ったり、それに応じたレジュメがあったので、わかりやすかった。
- ・レジュメとパワーポイントが一致していた。
- ・ビデオを見ながら進められるので、話を聞くだけではイメージが湧きにくい内容も理解しやすかった。レジュメに他の受講者の感想やおすすめ文献などを示してくれているのも非常に参考になってよかった。
- ・レジュメが分かりやすく、大事な点もきちんと説明されていたのが良かった。(同5名)
- ・レジュメどおり授業が進められて見やすかった。
- ・レジュメに沿った内容で、授業が進んでいったので全体的には分かりやすかったです。
- ・学生の意見を聞いてレジュメを作り変えてくれたのが良かったです。
- ・毎回、その時間の授業内容をまとめたレジュメを配布してくれること。
- ・板書、レジュメ、説明等すべて丁寧にしてくださり、授業に対する先生の熱意を感じた。課題についてもコメント付で返ってきたことはとても嬉しかった。授業を通じて自分の中で発展的に自分の意識が高めることが出来ました。ありがとうございました。
- ・レジュメやパワーポイントの内容がとても詳しく、わかりやすかったです。
- ・レジュメどおりに進めてくれるので、復習しやすい。

2. レジュメ/改善を期待するところ

- ・レジュメが多すぎる。課題が多すぎる。(度が過ぎていきます)
- ・パワーポイントのレジュメがほしかったです。(同3名)
- ・板書のみなので書く時間が惜しい。テーマや小見出しのレジュメがあればもっと理解が深まったと思います。
- ・レジュメが多すぎ、話し方が単調で聞いて面白くなかった。
- ・毎回レジュメの説明という授業だったので、少し退屈だった。もうちょっと授業の工夫が欲しい。
- ・レジュメだけでなく、パワーポイントや板書を多用して授業に集中させられるようにしてください。
- ・莫大な量を黒板に書かせるなら、レジュメ化してくれたほうが効率もよく、見えない心配もないと思った。
- ・レジュメだけでなく、もっと板書をして解説をしてほしい。
- ・レジュメの内容をもっと細かく詳しく書いてほしい。
- ・レジュメどおり進んでほしかった。
- ・レジュメに隙間がなくて見づらい。
- ・レジュメをもっと見やすくしてほしいです。
- ・ずっとレジュメの授業だったので、テストでは自筆ノートのみ持ち込み可っていうのがひどいと思いました。それだったらもっと板書したりしてほしかったです。
- ・テストでレジュメ持ち込み不可ならば、最初から板書で授業をしてほしい。ノートに書き写すのが、大量すぎて

大変。または、授業の最初に、この強化のテストはレジュメ不可と伝えてほしかった。

- ・レジュメの空白をもっと増やしてほしい。書き込むスペースをもっとほしい。

プレゼンテーション（パワーポイント）の使用

1. パワーポイントを使う意味 / 改善を期待するところ

- ・PPを作っても見る機会がなければ意味が無いと思うので、その準備をしっかりとしてほしい。
- ・PPの力に頼りすぎ。
- ・PPがわかりにくいのでわかりやすくするべきだ。
- ・PPを使用した授業はわかりにくい。
- ・PPの量が多い。
- ・PPはノートに取りづらいです。
- ・PPのプリントがわかりにくかった。
- ・PPが効果的でなかった。

2. スライドショーのはやさ / 改善を期待するところ

- ・ペースが速かった。
- ・PPの進み具合をもう少しゆっくりしてほしいです。
- ・PPの切り替えが速い。
- ・スクリーンをもう少しゆっくり見せてほしかった。
- ・PPの展開が速かった。
- ・PPで進むのが速い時があった。
- ・もう少しPPをゆっくりまわしてください。
- ・PPの切り替えが速すぎました。
- ・PPの切り替えが早すぎるかと。
- ・PPが速かったです…。
- ・話さなければいけないことが多いのはわかりますが、PPで次に進むのが早い。
- ・すぐ次へ行かないでほしい。
- ・もう少しPPを写す時間がほしかったです。
- ・PPを次のページにするのが速い。いつも書き写すの間に合わなかった。
- ・PPなのでノートが間に合わないことがあった。
- ・PPが速すぎてノートがとれない。

3. 配付資料の準備 / 改善を期待するところ

- ・PPのレジュメがほしかったです。
- ・PPのプリントを配布してほしかったです。
- ・プリントがほしい。
- ・講義で使用したPPのプリントは全て配ってほしかった。
- ・PPのプリントも配ってほしい。
- ・PPを印刷して配るからノートに書かなくていいよって言ったのに、1枚も配ってくれない。
- ・PPを早く配ってください。
- ・PPで提示される文章をノートにとっている時間をもう少し

し有意義に過ごせたらいいなと思いました。

- ・PPが多く、書くことに時間を割りすぎておりテンポが悪かったように思う。
- ・PPの量が多いのでノートをゆっくりとる時間がほしかったです。
- ・PPだと板書しにくい。
- ・PPを使うせによくしゃべる。ノートに重要なことを書く暇なし。
- ・PPを書き写すのに時間を使いすぎ、しかも大切な所は書かれておらず、先生の話が大切なので理解しづかった。

4. 画面の見やすさ / 改善を期待するところ

- ・PPが見にくかった。
- ・PPの見にくいところがあったので、そこを直してほしいです。
- ・レジュメの自分で書くところで、PPが見にくい時がありました。
- ・PPを見やすくしてほしい。
- ・PPが少々見づらいです。
- ・PPをもっと見やすくしてほしい。
- ・PPが単調。
- ・PPの映し方。
- ・電子画面で見づらいのもう少し見やすくしてほしい。
- ・右半分のスクリーンが見えなくて不便だった。
- ・PPを4つ全ての画面で出して欲しかった。
- ・PPを使う時は、前のほうだけでも電気を消してほしいです。
- ・PPする時はもっと電気を消した方がいいと思う。
- ・PPが見にくい。プリントに通し番号をつけてほしい。プリントの答え合わせをしてほしい。
- ・PPの文字を大きくしてほしい。
- ・画面の字が小さい。
- ・文字が小さい。
- ・PPの文字が小さすぎて見えない。
- ・図の字が小さかった。
- ・PPのフォントをもう少しあげてほしいです。
- ・少しPPの文字や図が見にくい時があった。
- ・PPの赤い文字が見えにくくてアンダーラインを入れるのに時間がかかった。
- ・PPの重要ところが赤字っていうのはちょっと見にくかったです。
- ・白黒をカラーにしてほしい。
- ・PPの背景と文字の色が近く見にくい時があった。色に工夫をお願いします。
- ・前回のPPで、バックが赤色だった時、ほとんど見えませんでした。

5. 機器のトラブル / 改善を期待するところ

- ・PPが動かなかったりだったので、しっかりしてほしい

ったです。

- ・スライドが最初の時間のうちに出ていない時があって少し困りました。
- ・PPの不具合。
- ・PPが映らない時があるので、設備の使用方をしっかり把握し、大学側も設備の整備をしっかりしてほしい。
- ・コンピュータの都合で途中で片方が見れなかった。コンピュータがよく壊れて授業が始まるのが遅かった…。

付記

いくつかの項目で取り出した学生の自由記述は以上の通りである。これらの記述をどのように理解し、活用するかということにはさまざまな留意点があると考えられるが、教授法改善のための参考になる声であることは事実である。例えば、授業資料を視覚的に提供するプレゼンテーションとしてPower Point等を活用することは珍しいことではなくなってきたが、Power Point等を使えば学生が満足するかと言えば必ずしもそうとは言えないようである。教員の考える教授法の工夫が、学生の学習理解の一助となっているわけではないという事実がある。Power Point等の活用についての配慮点として、以下のことが考えられる。

1. スライドショーのはやさ

スライドショーの画面の切り替えについては配慮が必要である。少なくとも、学生がノートに記述する時間を配慮して画面を切り替える必要がある。

2. 配付資料の準備（スライドの配布資料）

スライドをノートに写す時間をとらず、単に資料として紹介するのであれば、ノートに記述する必要がないことを知らせることで、スライドを見ることに集中させることができると考えられる。学生の意識は、ノートに記述することに向く傾向があり、結局、理解も記録も不十分な状態で終わってしまうことになってしまうようだ。多くの情報を扱う場合、スライドの内容を資料（紙媒体）にしておくことも考慮したい。

3. 画面の見やすさ

Power Point等は分かりやすく作成する必要がある。社団法人 私立大学情報教育協会 全国大学IT活用教育方法研究発表会発表要項によると、Power Point等の作成の留意点として以下のことが示されている。

文字サイズ30ポイント以上にする。

5行程度にまとめる。

文字色、背景色などは実際に教室で見ても確かめる。

4. 機器のトラブル

機器の整備についても事前の確認を行いたい。PCがうまく起動するかどうか、スクリーンの大きさや向き、音声機器

との併用の場合の接続状況など機器の調整が必要である。

いずれにしても、教授法改善は授業を構成する教員と学生の相互の評価を随時行い、適宜、改善を図っていかねばならないと考える。

授業アンケート自由記述の「考察」については、日下隆一、自由記述の項目については、近藤敏夫・藤松素子・有田和臣・達富洋二（掲載順）、付記については達富洋二が執筆した。

2008年度スタッフ紹介

教授法開発室	事務局
室長 達富 洋二(教育学科)	八木 透(教学部長 人文学科)
室員 有田 和臣(人文学科)	山本 博子(教育開発課長)
榎本 福寿(人文学科)	岸田 恩(教育開発課主任)
持留 浩二(英米学科)	山本 理絵(教育開発課契約専門職員)
小林 隆(教育学科)	
近藤 敏夫(現代社会学科)	
藤松 素子(社会福祉学科)	
日下 隆一(理学療法学科)	



BUKKYO UNIVERSITY